

首都圏レジリエンスプロジェクト・データ利活用協議会
第3回シンポジウム「データ利活用が目指す3つの先進技術」
日時：平成30年1月16日（火）10:00～12:00
場所：銀座フェニックスプラザ2F フェニックスホール

挨拶

竹内 英（文部科学省研究開発局地震・防災研究課長）

文部科学省研究開発局地震・防災研究課の竹内と申します。よろしく申し上げます。首都圏を中心としたレジリエンス総合力向上プロジェクト・データ利活用協議会第3回シンポジウムの開催に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

6月に発足したデータ利活用協議会は今回で第3回を迎え、延べ約400名の自治体や企業の皆さまにお集まりいただいています。これについて感謝を申し上げるとともに、地震観測のデータ提供に積極的に同意いただいた皆さまには、重ねて感謝を申し上げます。

本事業は、首都圏の稠密な地震計による観測網でビッグデータを構成し、比較的頻度が高い中規模な地震や大規模な地震の情報を、瞬時に非常に小さなメッシュで提供することで、災害時の事業継続、経済損失を抑える仕組みを実現することを目的としています。この実現に向けて、来年度の予算案は今年度から6000万円増額して4.6億円の規模となっており、企業の皆さま、防災科研の皆さまと協力させていただきながら、社会に役立つ成果を出していく段階に近づいていると思っています。内閣府の方でも、建築、インフラ、防災を柱とした官民研究開発投資拡大プログラム（PRISM）が予算措置されることになっており、この枠組みについても参画しながら、企業、自治体の皆さまと協力し、本プロジェクトを進めていければと思っています。

本日は、データ利活用協議会に参加いただいた皆さまに心より感謝を申し上げますとともに、今後の防災力向上による社会貢献に向けて活発な議論がなされることを期待し、私からの挨拶とさせていただきます。